

表1. 特定健診第4期からの中性脂肪の保健指導判定値の変更

- 「標準的な健診・保健指導プログラム」について「健診検査項目の保健指導判定値」を下記のとおり修正する。

保健指導判定値		
	現行	修正案
中性脂肪	150 mg/dl	空腹時150 mg/dl
		随時175 mg/dl

- 階層化に用いる標準的な数値基準を下記のとおり修正する。

追加リスク		
	現行	修正案
②脂質異常	中性脂肪150 mg/dl以上 又は HDLコレステロール40 mg/dl未満	空腹時中性脂肪150 mg/dl以上 (やむを得ない場合は随時中性脂肪175 mg/dl以上) 又は HDLコレステロール40 mg/dl未満

※黒字：現行使用されているもの 赤字：修正箇所

- 脂質異常症診断基準について、従来の動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2017 年版では、中性脂肪（トリグリセライド）150mg/dl 以上と示されていたが、動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2022 年版では、非空腹時採血の基準が新たに設定され、中性脂肪（トリグリセライド）150mg/dl 以上（空腹時採血※）・175mg/dl 以上（随時採血※）とされた。

※基本的に 10 時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。空腹時であることが確認できない場合を「随時」とする。（動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2022 年版）

- 特定健診・特定保健指導における保健指導判定値等について、健診の実施のしやすさの観点から、第3期より、随時採血が認められた経緯等を踏まえ、上記ガイドラインの変更に伴い、食事の影響が大きい中性脂肪の基準値に、随時採血時の値を追加することとする。

表2. 特定健診第4期からの保健指導基準、受診勧奨基準

見直しの方向性（案）

- 「標準的な健診・保健指導プログラム」における受診勧奨判定値は、医療機関への受診を促すものとして設定されているが、判定値を超えるレベルの場合に直ちに服薬等の治療が開始されるという誤解を防ぐための注釈や、健診受診者に正しく情報を伝えるためにフィードバック文例集をあわせて参考・活用していただくことについて、分かりやすく明示してはどうか。

項目名	保健指導判定値	受診勧奨判定値（※） （※判定値を超えるレベルの場合、再検査や生活習慣改善指導等を含め医療機関での管理が必要な場合がある。）	単位
収縮期血圧	130	140	mmHg
拡張期血圧	85	90	mmHg
空腹時中性脂肪	150	300	mg/dl
随時中性脂肪	175	300	mg/dl
HDLコレステロール	39	—	mg/dl
LDLコレステロール	120	140	mg/dl
Non-HDLコレステロール	150	170	mg/dl
空腹時血糖	100	126	mg/dl
HbA1c（NGSP）	5.6	6.5	%
随時血糖	100	126	mg/dl
AST	31	51	U/L
ALT	31	51	U/L
γ-GT	51	101	U/L
e-GFR	60	45	ml/分/1.73m ²
ヘモグロビン値	13.0(男性) 12.0(女性)	12.0(男性) 11.0(女性)	g/dl

※ 受診勧奨判定値を超えるレベルの場合、健診受診者本人に健診結果を通知する等の対応の際には、フィードバック文例集を参照・活用下さい。

表3. 特定健診第4期の脂質異常のフィードバック文例集

【健診判定と対応の分類】

健診判定			対応	
			肥満者の場合	非肥満者の場合
異常 ↑	受診勧奨 判定値を 超えるレベル	LDL-C $\geq$ 180mg/dL 又は TG $\geq$ 500mg/dL (空腹時、随時を問わない)	① 早期に医療機関の受診を	
		140mg/dL $\leq$ LDL-C < 180mg/dL 又は 300mg/dL $\leq$ TG < 500mg/dL (空腹時、随時を問わない)	② 生活習慣を改善する努力をした上で、医療機関の受診を	
	保健指導 判定値を 超えるレベル	120mg/dL $\leq$ LDL-C < 140mg/dL 又は 空腹時 150mg/dL (随時 175mg/dL) $\leq$ TG < 300mg/dL 又は HDL-C < 40mg/dL	③ 特定保健指導 の積極的な活用 と生活習慣の改 善を	④ 生活習慣の改善 を
正常 ↓	基準範囲内	LDL-C < 120mg/dL かつ TG < 空腹 時 150mg/dL (随時 175mg/dL) かつ HDL-C $\geq$ 40 mg/dL	⑤ 今後も継続して健診受診を	

図1. 特定健診を用いた階層化の流れと問題点

